



7月号 (No. 4)

2026年6月25日

帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

2つのセカンドスクールを終えて

帝京大学小学校 校長 石井卓之

5月24日(日)から27日(水)の3泊4日、5年生のセカンドスクールを千葉県館山市で実施しました。これまでは日光の奥湯本に宿泊し、戦場ヶ原の自然体験や東照宮での歴史学習を行って来ましたが、戦場ヶ原に熊が出没したことや東照宮がインバウンドの関係で大混雑して思うように見学ができなくなっていることから、熊との遭遇がなく海洋教育を行える館山に目的地を変更しました。学年の教員たちは、行程や体験プログラムを新しく作り直し、子どもたちが楽しみながら豊かな体験や学習ができるように事前準備を進めました。



5年生の宿泊で一番感心したことは、教師が全体に対して説明を始めると気付いた子どもたちが声をかけ合い、全体があつという間に静かになったことです。昨年度までにはない素晴らしい行動でした。また、お互いを呼び合う際に、敬称をしっかりとつけていることにも感心しました。朝会でも繰り返し言葉の問題について話をしていますが、敬称をつけることでその後続く言葉は乱雑になりにくい傾向があります。5年生はそれができています。低学年のときにはできていても、進級する過程で崩れてしまうことが多々あり、模範となれる姿でした。さらに、見学の態度や記録の仕方もよかったです。勝浦の海の博物館では学芸員の方の話をしっかりと聞き、展示物をよく

見て記録をしていました。前日に沖の島や宿舎前の海岸で自分が見つけた生き物の名前を標本や解説から見付け出そうとするなど意欲的な活動が見られました。鴨川シーワールドでは、班のメンバーでばらばらにならないように声をかけ合いながら、協力して見学を進めることができていました。褒めポイントが数多くありました。



3・4年生のセカンドは、6月14日(日)から3年生は2泊3日、4年生は3泊4日、多摩市の八ヶ岳少年自然の家で実施しました。縦割りの宿泊活動も3年目となり、大人も子どもも大分慣れてきて、プログラムも安定してきています。今回特に感じたのは、4年生の成長です。昨年度も同じ宿舎で生活をしているので、見通しをもって活動することができていました。特に、食事の準備は例年よりも10分ほど早く終えることができ、その後の活動がスムーズに行えました。また、玄関前に提示されたタイムスケジュールを確認し、班に伝達する仕事もしっかりと行っていました。部屋割りは2学年を混ぜて行ったので、色々な場面で4年生が指示を出しながら、3年生をフォローしてく

れました。その成長ぶりに感心したとの声が、多くの教員から上がっていました。今回は途中で学年ごとのプログラムを入れるなど、発達段階に応じた取り組み方を工夫しています。その中で、4年生の「でんづくり(動物の巣を模した隠れ家づくり)」はよく工夫されたものが多く、創意工夫の高さを感じました。

セカンドスクールで学んだこと、身に付けたことが学校生活で生かされることを期待しています。

職員室の窓

昨年度の日光から行き先が変更となった3泊4日の千葉館山での自然教室。集団生活の中で時間を意識した行動をとること、お互いに声を掛け合いながら協力して生活することができました。生活の中でどんどん切り換えが早くなる子どもたちの成長ぶりに驚かされました。様々な生きもの、体験に触れて多くの学びを得た子どもたち、セカンドスクールでの学びを今後の学校生活に存分に生かしてもらいたいです。



《5年 担任団》